

2025.8.20

八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議

提言の方向性について

まちの魅力創生ネットワーク会議概要

設置目的

若者や女性にとって魅力あるまちの実現に向け、市長の諮問に応じて政策提言を行うために、令和４年度から市の附属機関として設置されたもの

役割

若者や女性の視点を活かした魅力的なまちづくりに関するテーマについて議論を行い、政策提言をまとめ、市長に対して提言書を提出する。

4月下旬～9月下旬の間に7回程度開催し、10月1日(水)に、市長に対してプレゼン形式で政策提言を行う

。二
令和7年度
政策提言の柱

- 1 若者の居場所・活動
- 2 地域交通
- 3 スポーツ・地域クラブの活性化
- 4 祭り・地域文化と休暇制度
- 5 人材育成・高等教育機関の魅力向上
- 6 八戸市の魅力発信
- 7 女性の地位向上

1 若者の居場所・活動

①はっちを若者の第三の居場所へ

☆若者専用フロアの設置

☆情報発信・集まる場としての機能強化

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- 「はっち」の1階から4階のいずれかのフロアを丸ごと中高生専用の居場所にする。カラオケ、卓球、学習スペースなど、中高生が「楽しい」と感じられる要素を取り入れ、使い方などの設計は中高生自身が発案し、運営委員会のような形で主体的に関わり、自分たちの居場所を自らの手でつくっていく。
- スタッフは、市民や地域おこし協力隊、青年会議所（JC）など、若者と一緒に何かをやりたいという思いを持つ人材との連携が大事。
- 現状、市の各種イベントなどは「学生の集客」に課題を抱えていることが多く、地域活動と若者との接点を生み出す“0から1”の仕組みづくりとして、この「中高生の居場所」整備が重要である。

担当課：八戸ポータルミュージアム

1 若者の居場所・活動

②公共施設をもっと使いやすく

☆空き状況の見える化（公民館、学校体育館）

☆“規制緩和型”公共施設開放プロジェクト

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- 公共施設の空き状況がリアルタイムで確認できるようになれば、貸す側・借りる側の手間が省けるとともに、これまで活用されづらかった隙間時間の有効活用が図られる。
- 若者が気軽に行ける公共施設へ、行政が“規制なし”で場所を貸し出すことで、何かにチャレンジしたい若者の最初の一步を支える。
- 美術館で“バスケ”のような“異端でワクワクする企画”を公的に後押し

担当課：教育総務課、社会教育課、美術館ほか

1 若者の居場所・活動

③共につくる、育てる、若者の居場所

☆ Park-PFI × ネーミングライツによる公園再生

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- 老朽化や草木の管理不足による「遊べない公園」が多いのではないか。
- 公園を単なる遊び場ではなく、地域交流やスポットとしての活用など、別視点で考えてはどうか。
- 民間力を活用した公園のリニューアルや、「ポケモンパーク」の誘致をすすめてほしい。
- 公園や、橋など、ネーミングライツを活用した財源確保や、企業に公園の整備や管理を任せることで活性化を図る。

担当課：公園緑地課、行政管理課

2 地域交通

①バスを初めて使う一歩を応援する仕組みの導入

- ☆「ファーストバス」チケットを小中学生に配付してバスに乗ることを身近なものにする
- ☆保護者への啓発・同行体験イベントも
- ☆「乗りたくなる」ような魅力あるバス停づくり（民間広告＋風除け等）

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- バスのルートが分かりにくい、乗り方を知らないこどもが多い（ルート・時刻表・案内等）
- バスを利用してもらうためには、まず一度でも実際に乗ってもらうことが大切であり、バスの乗り方を知らない・使い慣れていない人にとっては、最初の一歩が大きなハードルになっているため、「きっかけづくり」が重要。お祭り期間や総体時など、限定的にチケットを配付してもいい
- 広告付きの風除室がついたバス停は、見た目にも清潔感があり、利用者にとっても快適に感じられるのでは。「ちょっと使ってみたくなる」ようなバス停の整備は、こどもにとっても無意識のうちにバスの利用を後押しする効果があるのではないか。

担当課：政策推進課、交通部

2 地域交通

②学校バス停の導入

- ☆習い事・通学・通院などの送迎負担を軽減。民間・地域連携で実証実験へ
- ☆学校をバス停に見立てて定時送迎型のバスを運行

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- 小・中学校をバス停に見立て、既存のバスを学校単位で運行し、塾や部活動先など民間施設への送迎を行う
- 保護者の安心感につながり、子ども同士の交流も生まれる。地域ごとの公共交通として段階的に導入すれば、負担軽減と利便性向上が期待できる。

担当課：政策推進課、交通部

3 スポーツ・地域クラブの活性化

①指導者と地域がつくる、クラブ活動の未来

☆「八戸市公認地域クラブ制度」の創設

☆指導者育成・認定制度、施設利用の優遇

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- 八戸市公認地域クラブ制度の創設について、これから部活動が地域展開していく中で、良い責任者、良い指導者、いわゆるパワハラや体罰など、問題になっていることをないようにしたい。
- 指導者の育成と認定をしていく。その認定取得のために講習を行ったりもして、子どもたちが安全に楽しくどんなスポーツでも楽しめるように、公認地域クラブ制度を設置すべき
- 地域認定クラブと名乗ることで、市内の体育館や施設を営利や非営利は関係なく、使いやすくなるようにしてほしい。

担当課：教育総務課、スポーツ振興課

3 スポーツ・地域クラブの活性化

②誰もが参加しやすい、地域クラブ活動の仕組みづくり

☆スポーツ・文化クラブ活動情報の一元化

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- 部活、クラブ、スポーツ団体の情報が相当探しにくい、分かりにくい。
- Webのページがない団体に対してページを作れるような支援や簡単なフォーマットを作成し、入力すれば、市の公式ページに載って探しやすくなる。

担当課：スポーツ振興課、文化創造推進課

4 祭り・地域文化と休暇制度

「お祭り休暇」の導入

☆7/31～8/4（前夜祭・後夜祭含む）のうちいずれか1日をお祭り休暇に

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- お祭り休暇を民間企業でも導入が進むように、まずは市役所で実施してもらいたい。
- こどもは休みだが、親が仕事でお祭りに行けないという場面もあることから、“お祭り休暇”で休むことができれば、お祭りに行きやすくなる。
- “お祭り休暇”が取れる企業が増えていけば、お祭り参加で休暇を取る後ろめたさもなくなる。
- 将来的には2/17～2/20のいずれかの日を休める“えんぶり休暇”も導入してほしい。

担当課：人事課

5 人材育成・高等教育機関の魅力向上

①若手社員向けセミナーの充実

☆セミナーや異業種交流会の実施

☆地域内同期の創出

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- 市で実施している若手社員向けセミナーについて外部の委託先に任されていて、形式的な研修になっていないか、参加している市内企業の若手社員も多くは会社の指示で参加しており、自主性や目的意識が薄いまま参加していないか
- 若手を「育てる側」の存在も重要で地域の人たちが若者に寄り添い、悩みや成長を支える「地域の人事部」のような仕組みを構築すべき
- セミナーの内容もワークショップなどの参加型に変え、ファシリテーターワークショップのグループには、ファシリテーターとして30代くらいの中堅職員を入れてごちゃまぜにする

担当課：産業労政課

5 人材育成・高等教育機関の魅力向上

②「まちの魅力創生部」の設立・支援

- ☆地域課題を“ビジネス”で解決する人材の育成
- ☆「カッコいい大人」から学ぶ、地域内キャリア形成
- ☆地域課題をテーマにした協働の「プロジェクト」に対する支援

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- 地域課題が多様化していて行政の対応だけでは限界があるのでは。民間や市民が主導していくような新しい動きが必要ではないか。
- 若い世代や地元に関心のある人たちが、地域課題をビジネスやプロジェクトに変える力を育む仕組みをつくり、「カッコいい大人」を育成する。
- 「カッコいい大人」の活動に若者も巻き込み、地域内でキャリア形成を支援する。
- 市民×企業×学生が協働で地域課題に取り組むプロジェクトをコンペ形式で開催する

担当課：政策推進課、市民連携推進課

5 人材育成・高等教育機関の魅力向上

③公立大学の設置、中心街への機能移転

- ☆ 公立大学を八戸へ
- ☆ 中心街への大学機能移転
- ☆ 検討委員会の設立

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- 若者定着の鍵として「公立大学の設置」が長年の議題として挙がっている
- 他都市の大学再編の動きがある今こそ議論をするべきで手遅れにならないように
- 大学誘致は、若者の定着や、外部からの学生流入によるマチの活性化、地域産業との連携によるイノベーション創出にもつながるのでは

担当課：政策推進課

6 八戸市の魅力発信

①マチの声、マチの魅力 発信プロジェクト

- ☆ロールモデル紹介や動画コンテストによる魅力発信
- ☆地域メディアやSNS等を活用した人・地域の魅力発信強化

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- 八戸の「まち」と「ひと」の魅力を伝えるために、動画コンテストやロールモデル紹介を通じた魅力発信が必要
- 地域メディアやSNSの活用による、複数の媒体を通じて多層的に情報を発信していくことが重要であるとの認識が共有された。
- 魅力を「内向き」ではなく、「外向き」に伝える仕掛けが必要
- 一方で、「内向き」にも魅力を伝えることは必要、まずは「まち」を知ってもらう

担当課：広報統計課

6 八戸市の魅力発信

②ふるさと納税制度の再設計

- ☆使途を5大分野程度に集約し、見える化する
- ☆「ふるさと参加型納税」モデルの導入

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- 教育・福祉・産業・観光・防災など、5つの柱に再分類し、選びやすくシンプルに
- 寄附金の使途は動画やインフォグラフィックで公開し、納税後の納得感と誇りを醸成
- 返礼品に「市長と語れる権利」「委員会への1回参加権」など共創型体験特典を付加

担当課：広報統計課

7 女性の地位向上

①多様な対話のための市政改革

- ☆全ての市の会議に「若者・女性参画制度」を導入
- ☆対話のための市民教育・啓発の実施

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- 委員構成において女性・40歳以下をそれぞれ定員の50%以上とするルールを設置
- 市民公募枠や抽選参加枠（市民委員）も増枠し、「当事者の声」を担保
- 市内小中学校・全企業・経済団体にてジェンダー／多様性についての出張講演を制度化し、外部有識者との「世代横断対話カフェ」や、企業・行政向け無意識バイアス研修の展開を目指す。

担当課：行政管理課、市民連携推進課

7 女性の地位向上

②若者・女性が働き続けられる「八戸ルール」の制定

☆八戸市版「女性活躍・若者定着企業認証制度」の創設

☆経営者層への意識を変える施策

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- 女性比率／若手定着率／賃金改善努力などを評価し、八戸市が独自に表彰・支援
- 年2回以上の経営者対象ジェンダー・多様性研修の義務化し、女性や若手の社外取締役派遣モデル事業の導入

担当課：市民連携推進課、産業労政課

7 女性の地位向上

③Uターン障壁を取り除く報酬設計と移住支援の改革

- ☆「地域で暮らすことのコスト削減」政策
- ☆移住希望者向け支援金の抜本見直し
- ☆若者世帯や女性単身世帯向けに市営住宅制度

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- 水道料金・公共交通の割引制度を導入する、一定所得以下世帯には、住居支援・通信費補助等の生活基盤支援も実施
- 交通費、車の維持費、通信環境、住まいの整備状況など、地方ならではのコストがあり、それが移住や定住の壁になっているのでは。
- 地域での副業・兼業モデルを支援（例：複業型インターン、プロボノ制度の仕組み化）
- 若者世帯や女性単身世帯が安心して暮らせる環境整備が必要であり、市営住宅制度の見直しが必要

担当課：広報統計課、産業労政課、建築住宅課

7 女性の地位向上

④関係人口創出と持続的な関わりしろの形成

☆女性の移住還流による関係人口の創出

☆八戸版メンター育成

委員の発言内容（取組案の趣旨）

- 移住や二拠点生活を考えている首都圏に住む女性を対象にして、食のイベントや先輩移住者との交流イベントを実施する。二拠点生活を考えている女性は、経済的にも自立していることから、仕事ができる環境と地域との関わりが必要
- メンターやコーディネーターの養成を行い、世代間の価値観やなどの壁を越えるため、企業・地域に外部支援者（メンター/コーディネーター）を配置

担当課：広報統計課